

# 沿岸重要資源調査\*

武田 保幸・阪本 俊雄

## 目 的

昭和62年度南西海区沿岸重要資源調査要綱による。

## 調査対象魚種及び内容

200カイリ水域内漁業資源総合調査の指定対象魚種（マイワシ、サバ類、マアジ）以外のカタクチイワシ、ウルメイワシ、モロ、オアカムロなど主として本県沿岸漁業で多獲される浮魚類を対象とする。

調査内容は以下のとおりである。

- (1) 生物測定調査……対象魚種の体長、体重、生殖腺重量等
- (2) 漁獲努力量・漁獲量調査……田辺、南部町漁協所属中型まき網の月別出漁日数、延べ揚網回数、延べ隻数と魚種別漁獲量

## 結 果

本年度の生物測定状況は表1のとおりである。この内、カタクチイワシとウルメイワシの体長組成

表1 各魚種の体長測定状況

魚 種	尾、1987.4～1988.3												計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カタクチイワシ	—	—	72	65	55	92	—	—	—	—	—	—	284
ウルメイワシ	40	—	236	140	368	414	355	294	—	27	66	90	2,030
モロ	—	98	—	—	—	—	113	—	145	259	—	—	615
オアカムロ	—	—	—	—	—	—	—	—	105	113	—	—	218

を図1、図2に示す。カタクチイワシは夏期の体長組成しか得られなかったが、昨年度と同様に漁具選択性のため10cm前後のものが中心である。ウルメイワシは1987年の総漁獲量（1そうまき）が'86年の約30%に激減した（本誌200カイリ水域内漁業資源総合調査参照）がこれは黒潮離岸による本種の沿岸域からの逸散のためであり、図2からも春期当才魚の出現の遅れ、夏～秋期体長約20cmの群の逸散が読みとれる。

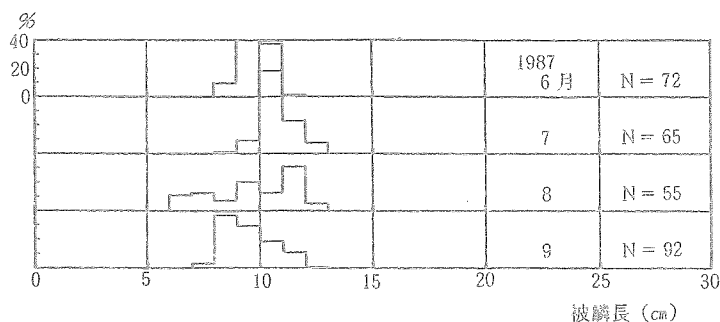


図1 カタクチイワシ体長組成

\* 漁業資源調査費による。本調査結果は南西海区水産研究所（高知）に報告し、昭和63年3月の南西海区ブロック水産資源調査担当者会議において概要を報告した。

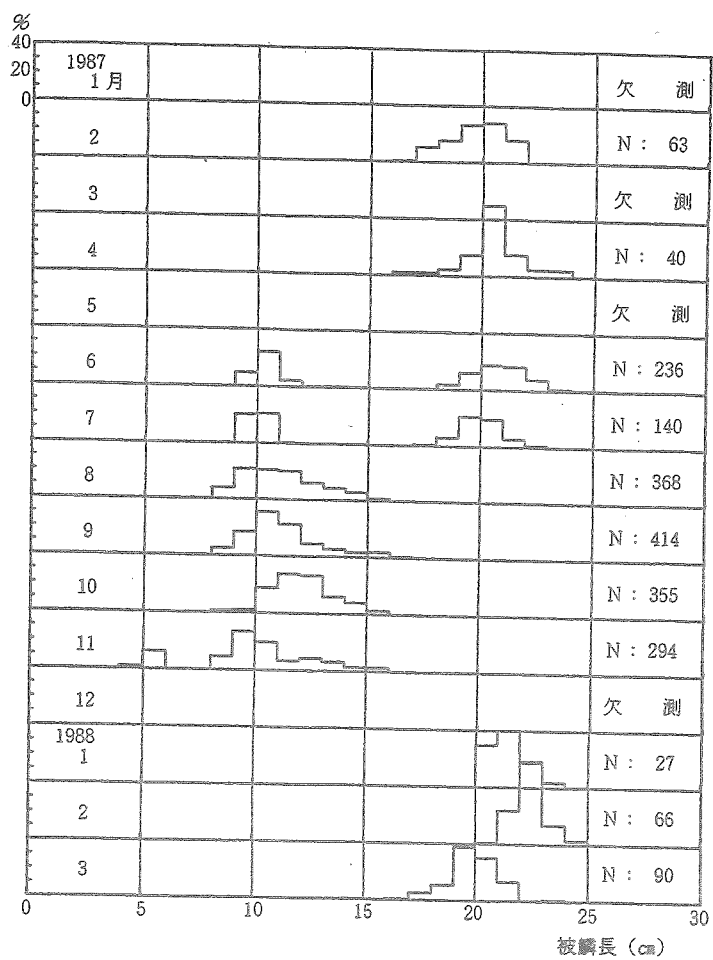


図2 ウルメイワシ体長組成